

改訂版

—みんなで家庭教育を支える—

おや がく

あおもり親楽プログラム

支援者編

3



青森県教育委員会

あおもり親楽プログラムの作成にあたって

家庭は、子どもたちの健やかな育ちの基盤であり、家庭教育は、すべての教育の出発点です。しかしながら、近年、少子化や核家族化、地縁的なつながりの希薄化等により、子育てや家庭教育を支える環境は大きく変化しています。親が祖父母などから子育てを学ぶ機会が減るとともに、地域の支えも弱まるなど、家庭教育を行うことが困難な社会になっているという指摘があります。

このようななかで、充実した家庭教育が行われていくためには、個々の家庭だけではなく、行政や学校、支援団体、企業、地域住民など子育てに関わるさまざまな主体が協力し、ひとりひとりの親が子どもの良さや個性に気づき、子どもの発達段階に応じた適切な関わりができるように「親の学びと育ち」を支えていくことが課題となっています。

そこで、県教育委員会では、親同士の話し合いを通じて主体的に学び合う学習プログラム「あおもり親楽プログラム」を、平成24年度から対象別（乳幼児・小学生編、中・高校生編、支援者編、特別編、特別編2）に作成し、令和2年度は、乳幼児・小学生編の改訂版を、令和3年度は、中・高校生編の改訂版を新しいプログラムを追加し、発行しました。

今年度は、平成26年度に作成した「あおもり親楽プログラム3～支援者編～」について、社会状況の変化に伴う家庭教育の今日的課題に対応するため、内容を改訂することとしました。改訂にあたっては、本県の家庭教育を取り巻く現状と課題を踏まえ、今後の家庭教育支援の在り方や、家庭教育支援者に求められることなどについて、内容を修正したほか、家庭教育を支援する方々がより活用しやすいプログラムになるよう工夫しております。

このプログラムを家庭教育支援に関連する研修や講座、保育所・幼稚園・学校等での保護者会やPTA研修会など、さまざまな機会に御活用いただくことで、支援者同士のつながりが深まり、家庭教育支援の一層の充実につながることを期待します。

結びに、本プログラムの作成に御尽力をいただいた青森県家庭教育支援推進協議会委員の皆様にご心より感謝申し上げます。

令和5年3月

青森県教育庁

生涯学習課長 渡部 泰雄

も く じ

あおもり親楽プログラムの作成にあたって	1
1 あおもり親楽プログラムについて	3
(1) あおもり親楽プログラムとは	
(2) 改訂版あおもり親楽プログラム3（支援者編）の構成と内容	
2 本県の家庭教育を取り巻く現状と課題	5
(1) 子育ての悩みや不安の現状	
(2) 家庭教育（子育て）支援の現状	
(3) 家庭と地域の教育力	
(4) 県教育委員会における家庭教育支援の取組（令和5年3月現在）	
3 今後の家庭教育支援の在り方	15
(1) 相談体制の整備と周知	
(2) 新しい家庭教育支援の普及啓発・学習機会の方向性	
(3) 家庭教育支援活動に携わる人材の育成・確保	
4 家庭教育支援者に求められること	19
(1) 支援者として心得ておきたいこと	
(2) 支援にあたって気をつけたいこと	
(3) 支援者としての力量形成に努める	
5 家族としてできること	25
(1) 家族だから関わり過ぎてしまうこと	
(2) 祖父母・家族に求められる親への支援	
6 あおもり親楽プログラムの活用方法	29
(1) あおもり親楽プログラムの流れ	
(2) あおもり親楽プログラムの進め方	
(3) あおもり親楽プログラムの使い方	
7 プログラムの実際	33
I 支援者を対象としたプログラム	
I-1 誰のための講座だろう？ ～参加者が主体的に話し合うためには～	
I-2 聴くことの大切さ ～相手の心に寄り添って～	
I-3 地域でつながるために ～きっかけを大切に～	
II 祖父母・家族を対象としたプログラム	
II-1 子育ての主役は誰？ ～祖父母・家族の役割を考える～	
II-2 親の親だからこそ① ～祖父母だからできること～	
II-3 親の親だからこそ② ～祖父母だからできること～	
8 共通資料	47
◆アイスブレイクのいろいろ・手法のいろいろ・プログラムシート・アンケート	
◆第2章に関連する参考資料	

本書で使う用語 ・親楽プログラム…親同士が学び、気持ちが楽になり、子育てが楽しくなる学習プログラムの意。
・親…家庭において子に教育を行う者、保護者を含む。